

◆第1部 議会報告 主な質疑応答

問 空き家等の適正管理に関する条例の制定について、助言、指導、勧告、命令、公表で終わるが、代執行はしないのか。

答 代執行しても費用を回収できない自治体があることから、本市ではそこまで踏み込みません。

問 議会費が減っているが、どういうことか。

答 主に議員定数の削減が要因であります。

問 木質バイオマス発電事業は、昨年から工事しているがいつ完成になるのか。

答 目標は来年の10月。本来もう少し早く始まる予定であったが、整地に時間がかかり、当初より3か月くらい延びました。

問 太陽光発電事業は、収入が1億円となっているが、当初計画どおりに発電を行っているのか。

答 第5発電所、旧大野町公民館跡地の発電は開始していない。最終的に西大分の変電所に送られるが、西大分の変電所は容量を超えており、今は受け入れられないとのこと。工事が終了するまでは発電できないと言われている。

問 地方交付税約114億円はいつまでこの金額がくるのか。

答 今年度までです。来年度から段階的に削減されます。5年間で約35億円あります。

問 インキュベーションファームの状況について知りたい。どのくらい定住されているのか。

答 30人くらいの応募があってその中から選考し、毎年3組の方が研修されています。

問 常任委員会ではいろいろな団体と意見交換会をやっていると。そういう内容を含めて議会だよりを充実してほしい。

答 今後協議して、そういう方向で取り組んでいければと思います。

◆第2部 定住促進に関する意見

- 近所のおばあちゃんたちが、広場などで、近所の子どもたちを集めて、昼間みてあげようかというような環境ができるのもいいのではないか。
- 女性が集まれば男性も集まる。特に若い女性の職場を誘致していただきたい。
- 市内でも人口が増加した地域があると思う。増えた要因はなにか、そこにヒントがあるのではないか。
- 農業大学校には97人の学生が本市に居住しているが、卒業後は市外に転出している。本市に定住することができないか、大学校と協議できることがあるのではないか。
- 移住するとき一番困ったのは、水道と宅地転用であった。水道を引くとなるとかなりの支出を伴うので、補助制度があれば助かるのではないか。
- 転入されたがなぜ住みたいと思ったのか。仕事の都合とかいろんな事情があると思うが、それとは違ったところで、気に入ったから住みたいと思った方もいるのではないか。それが豊後大野市の売りになるのであれば、そういうところを調査してみてもいい。
- 本市は建設業、農業が主たる産業と思う。建設業協会と高校現場と市の行政で土木科を復活していただきたい。
- 大分市のベッドタウンは、犬飼が適地。人口減少を止めるために、犬飼にベッドタウンを整備していただきたい。
- 今住んでいる人が外に出ないように、子どもたちが新築するときに補助をするなど、そういう策を考えていただきたい。